

思いやりの心とチャレンジ精神を育む 青少年の健全育成活動の推進

現状と課題

携帯電話やスマートフォンが広く普及し、顔を合わせなくてもコミュニケーションが取れる現代において、人間の成長段階である青少年期に必要な道德観、倫理観、社会性、コミュニケーション能力などの低下が大きな問題となっています。

今後、これからの社会を担う青少年にとって、思いやりの心や目標を持つことは長い人生を歩むうえで重要であり、思いやりの心とチャレンジ精神を育むための青少年の体験活動を推進していく必要があります。

また、市内には青少年の健全育成に取り組む団体が多く、子どもが地域で安心して安全で楽しく過ごせるよう、日々その活動を実践しており、青少年を温かく見守り、体験活動を支える地域活動は青少年の健全育成に欠かせないものとなっています。

取組概要

引き続き、青少年の健全育成を支える市民の地域活動の支援に努めるとともに、思いやりの心とチャレンジ精神を育むための青少年の体験活動と健全育成活動を推進します。

推進方向 7 における取組方策と主要事業の体系

推進方向 7

思いやりの心とチャレンジ精神を育む青少年の健全育成活動の推進

【取組方策 7 - 1】家庭、学校、地域などとの連携・協力を通じた健全育成活動の推進

< 主要事業 > 「青少年育成推進員設置事業」

【取組方策 7 - 2】関係団体の育成と活動の支援

< 主要事業 > 「子ども活動支援センター設置事業」

【取組方策 7 - 3】自然体験や地域文化の理解、科学探求活動の充実

< 主要事業 > 「チャレンジ教室」

< 主要事業 > 「イングリッシュキャンプ」

【取組方策 7 - 4】青少年の非行防止

< 主要事業 > 「青少年指導センター設置事業」

...後期計画追加事業

【取組方策 7 - 1】

家庭、学校、地域などとの連携・協力を通じた健全育成活動の推進

家庭、学校、地域などの様々な教育力（知識・経験・ネットワーク）と連携・協力しながら、有害環境から子どもを守るなど、青少年が地域の中で健やかに育つ環境づくりに努めます。

（主要事業）：「青少年育成推進員設置事業」

家庭、学校、地域などと連携・協力し、「青少年育成推進員設置事業」を実施します。

成果指標	計画策定時 (平成 21 年度)	中間年目標値 (平成 27 年度)	最終年目標値 (平成 32 年度)	後期計画目標値 (平成 32 年度)
青少年育成推進員の 委嘱者数	121 人	130 人	130 人	130 人

< 前期計画期間の取組 >

地域における児童・生徒の健全育成対策及び市内子ども会活動の推進を図るため、青少年育成推進員を設置しています。

実際に活動を行っている人を精査し委嘱を行った結果、平成 25 年度から被委嘱者数は減少していますが、青少年が地域の中で健やかに育つ環境づくりに努めました。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
青少年育成推進員の 委嘱者数	118 人	113 人	79 人	84 人

< 後期計画における事業概要 >

引き続き、市内各地域から選出された子ども会の指導者や健全育成団体活動の経験を有する方などを青少年育成推進員に委嘱し、地域における児童の健全育成対策及び市内子ども会活動の推進に努めます。



【取組方策 7 - 2】

関係団体の育成と活動の支援

市内には教育的機能を有する千歳青少年教育財団など、青少年の健全育成に取り組む様々な関係機関があり、それぞれが持つ教育力が地域で最大限に発揮しながら活発な活動が行えるよう、各種関連団体等の育成と活動支援に取り組みます。

(主要事業): 「子ども活動支援センター設置事業」

青少年活動に関する情報の収集・提供、活動相談、事業コーディネートなどを通じ、青少年関係団体の活動を支援します。

成果指標	計画策定時 (平成 21 年度)	中間年目標値 (平成 27 年度)	最終年目標値 (平成 32 年度)	後期計画目標値 (平成 32 年度)
情報紙を通じて活動情報を紹介した延べ団体数	290 団体	295 団体	300 団体	300 団体

< 前期計画期間の取組 >

青少年の体験活動等の機会充実を図るため、市民ボランティアが運営する「子ども活動支援センター」を設置し、青少年の体験活動等に関する情報の収集・提供、活動相談などを行いました。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
情報紙を通じて活動情報を紹介した延べ団体数	275 団体	297 団体	275 団体	282 団体

< 後期計画における事業概要 >

関係団体との連携を図り、様々な情報を収集するため、新たなボランティアの確保に努めます。



【取組方策 7 - 3】

自然体験や地域文化の理解、科学探求活動の充実

自然環境や地域文化を生かした体験学習活動機会や科学探究活動機会の充実に努め、考える力を育むなど、生きる過程で生じる様々な問題に対し、自ら取り組む姿勢が身につくような学習機会の充実に努めます。

(主要事業):「チャレンジ教室」

自然体験や地域文化の理解、科学探究活動の充実を図るため、「チャレンジ教室」などの体験活動事業を実施します。

成果指標	計画策定時 (平成 21 年度)	中間年目標値 (平成 27 年度)	最終年目標値 (平成 32 年度)	成果指標	後期計画目標値 (平成 32 年度)
子どもたちを対象とした体験活動機会の数(チャレンジ教室の開催数)	8 回	10 回	12 回	チャレンジ教室の参加割合	80%

< 前期計画期間の取組 >

市民ボランティアが講師を務め、ものづくりなどを通じた、子どもたちの生きる力を育むための体験学習を実施しました。

地域における子どもの健全育成を支援するため、幅広いテーマで子どもが関心を持つ事業を行いました。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
チャレンジ教室の開催数 (参加割合)	8 回 (87%)	8 回 (80%)	8 回 (85%)	8 回 (78%)

< 後期計画における事業概要 >

事業の成果は、単に回数を重ねることではなく、どれだけの市民が興味を持ち参加をしたかということが重要です。このことから、成果指標を参加割合に改め、目標数値を 80% に設定し、様々な体験活動事業の実施に努めます。

(主要事業): <追加事業> 「イングリッシュキャンプ」

青少年に英語に親しむ機会を与え、英語に対する興味や関心を高めることを目的に実施します。

<後期計画における事業概要>

国の方針で、英語教育の早期化が示され、現在小学5、6年生が行っている「外国語活動」が「英語」に教科化されるなど、今後、子どもたちが早い時期から外国語や異文化にふれることとなります。

このことから、小学生を対象に、外国人との交流を通して生きた英語にふれることで、英語に対する興味や関心を高めることを目的にイングリッシュキャンプを実施します。

外国人英語指導助手(ALT)の協力を得て、英語に親しむ機会の提供に努めます。



【取組方策 7 - 4】

青少年の非行防止

近年の青少年非行などの問題行動については、その背景や要因に対し家庭・学校・地域社会及び関係機関・団体が連携して対応するとともに、子どもの非行、問題行動に悩んでいる親や、悩みを抱えている青少年に対し、適切な助言・支援ができる相談窓口体制の充実に取り組み、青少年の非行の未然防止・有害環境の排除に努めます。

(主要事業):「青少年指導センター設置事業」

青少年を有害環境から守るため、関係機関との連携を強化し、巡回指導の充実に努めるなど、問題行動を未然に防止します。

成果指標	計画策定時 (平成 21 年度)	中間年目標値 (平成 27 年度)	最終年目標値 (平成 32 年度)	後期計画目標値 (平成 32 年度)
青少年を指導した年間延べ件数	261 件	200 件以下	170 件以下	170 件以下

< 前期計画期間の取組 >

専門指導員による街頭巡回指導、早朝・夜間指導、特別指導、列車指導などのパトロールや、有害図書等に係る店舗への立入調査を行いました。

指導件数は年度により変動はあるものの、平成 21 年度の初期値からは減少傾向にあります。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
青少年を指導した年間延べ件数	215 件	166 件	194 件	156 件

< 後期計画における事業概要 >

スマートフォンの普及に伴う、出会い系サイトや悪質商法などの有害サイトに加え、ソーシャルネットワーキングサービスにおける犯罪被害などの問題に取り組むとともに、青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用などの非行問題の防止のために巡回・指導体制の強化を図ります。

また、増加が懸念される青少年のネットトラブルに対応していく必要があり、小中学生のインターネット利用実態調査の結果を踏まえながら、フィルタリングの設定や適正なインターネット利用の指導など、青少年のさらなる非行防止に努めます。

